

子供やお年寄り向けに弁当考案

コロナ禍で需要が増える弁当のカロリーや塩分量など、健康に配慮して開発しようとする取り組みを3事業者が進めています。今月1日には完成した弁当の審査会を開催。高齢者向けに考案した濱田佳代子さんは、「ひとり暮らしだと小食で偏った食事になりがち。バランスよく食べてほしい」と発表しました。



花瀬石畳弁当 [花瀬川苑] ロールキャベツ弁当 [ホテルたけや] 3色丼弁当 [大滝の茶屋]



現在 2.7ha の葉たばこを生産する木下平さんと妻あけみさん。30年以上の栽培経験を誇る。

木下平さん
(川北自治会)

農林水産大臣賞受賞

農林水産業に対する認識を深め、生産技術や意欲を高めようと昭和37年に始まった農林水産祭で、木下平さんが農林水産大臣賞を受賞しました。県葉たばこ共進会でも優秀な成績を収め県知事賞も受賞。錦江町たばこ耕作振興会の会長も務める木下さんは「後継者や人手不足など課題も多いが、築いてきた産地を守るのが使命」と力を込め、農業の未来を見つめます。

3月4日から始まった議会定例会。初日は町長が施政方針を述べ、補正予算や総合振興計画の策定など承認されました。最終本会議は19日を予定。



※専決処分▼急を要する場合に議会に事後承認をもらい予算を計上する手続き

前年度比約1億7千万円の増
新型コロナウイルスの影響を受ける中小企業向け経済対策や、新型コロナワクチン接種関連の対策について、1日も早い事業実施に向け、総額2千974万円の専決処分を行いました。また、今月4日に始まった令和3年第1回錦江町議会定例会では、前年度比1億7千542万円の増となる、総額64億2千878万円の当初予算審議もスタート。新型コロナウイルス対策や体育館改修がおもな増額要因となる当初予算は19日まで審議されます。(詳細は広報4月号に掲載)

令和3年度当初予算の審議始まる

新型コロナウイルス対策として2千974万円を専決処分

特別創刊号
広報きんこう3月号特別企画
錦江新聞

発行：錦江町
令和3年3月
.....
広報きんこう新聞社
錦江町役場 政策企画課内
☎ 0994-22-3032
[平日 8:30 ~ 17:15]

茶業青年部 肝属チーム

県茶審査技術競技大会で団体賞

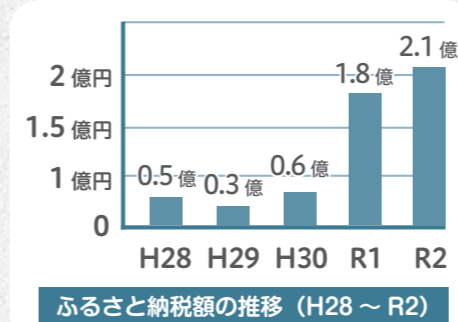


銘茶の道を拓くと刻まれた石碑前で「さらに技術を高め全国を目指す」と誓う池田光星さん(左)。

味や香り、外観といった項目で、茶の品種や生産時期、生産地を判定する「茶審査」の技術を競う、鹿児島県茶審査技術競技大会が行われ、錦江町勢が個人部門で上位に多数入賞。肝属チームが団体賞に輝きました。新型コロナウイルスの影響で全国大会は中止されましたが、一年越しの全国に向けてさらに技術を磨きたいと、4人は決意を改めました。

ふるさと納税寄付額が2月末で2億円超

2億1,187万円を過去最高の寄付額 (2020.4 ~ 2021.2)



令和3年2月末で2億1,187万円を超え、寄付件数は前年度に比べて約140%増加。

令和3年2月末時点でふるさと納税寄付額が初の2億円を突破し、過去最高額の更新が続いています。特に昨年8月から9月は前年比2倍以上。巣ごもり需要による消費拡大も寄付額増加の要因と見られ、「ふるさとチョイスアワード部門大賞」受賞などその使い道も全国から注目を集めています。特産品PRや町の知名度向上はもちろん、地域課題解決に向けた取り組みの貴重な自主財源として活用していきます。

左から盤山の山田榮一さん、有馬芳子さん、森徳一さん▶

広報きんこうが、県広報コンクール広報紙部門で特選を受賞し、日本広報協会主催の全国広報コンクールに鹿児島県代表として推薦されることが決まりました。与論開拓団が度重なる逆境を乗り越え、盤山に入植した歴史を特集した令和2年12月号が高い評価を受け、錦江町としては初の受賞。毎号、取材にご協力いただき皆さまに感謝し、今後も「伝わる広報」を目指します。



県広報コンクール特選
鹿児島県代表で全国へ

本土最南端ワイナリーに向け
浜田農園がCFにチャレンジ
クラシックブドウ浜田農園が、ワインブドウの生産拡大に向けて、クラウドファンディングに挑戦しています。本土最南端ワイナリーという新たな価値によって人の流れを生み出そうと取り組むプロジェクト。現在は福岡での委託醸造ですが、「3年以内に花瀬地区で年間1万本の醸造を目指す」と意気込み大きな一歩を踏み出した浜田農園の、地域の将来も見据えた挑戦が始まりました。



※群衆と資金調達を組み合わせた造語。インターネットを使って広く支援を呼びかける資金調達のひとつ。